

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

ハスモンヨトウ及びオオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報6号）について（送付）  
県内4カ所に設置しているフェロモントラップの誘殺数が6月4半旬頃から急激に増加し、6月6半旬頃にピークとなりました。この時期としては非常に多い誘殺数であり、今後農作物への被害が懸念されますので、今後の発生動向に留意して防除指導をお願いします。

記

- 1 対象病虫害 ハスモンヨトウ 及び オオタバコガ
- 2 対象作物 野菜類、大豆、花き類等
- 3 フェロモントラップの誘殺状況（設置場所別）

(1) ハスモンヨトウ

合志町（生産環境研究所）：6月5半旬から急増し、6月5半旬～7月1半旬の誘殺数は1,662頭（平年213頭）で平年に比べ非常に多い誘殺数である（図1）。

鏡町（い業研究所）：6月4半旬から徐々に増加し、6月5半旬～7月1半旬の誘殺数は165頭（平年186頭）で平年並みの誘殺数である（図2）。

波野村：6月4半旬から急増し、6月5～6半旬の誘殺数は177頭（昨年9頭）で昨年に比べ非常に多い誘殺数である（図3）。

清和村：6月4半旬から急増し、6月5～6半旬の誘殺数は144頭（昨年8頭）で昨年に比べ非常に多い誘殺数である（図4）。

(2) オオタバコガ

合志町（生産環境研究所）：6月5半旬から急増し、6月5半旬～7月1半旬の誘殺数は282頭（平年39頭）で平年に比べ非常に多い誘殺数である（図5）。

鏡町（い業研究所）：6月4半旬から徐々に増加し、6月5半旬～7月1半旬の誘殺数は14（平年3頭）で平年に比べ多い誘殺数である（図6）。

波野村：6月3～4半旬に増加が見られた。6月3～5半旬の誘殺数は7頭（昨年0頭）で昨年に比べ多い誘殺数である（図7）。

清和村：6月4半旬から急増し、6月5～6半旬の誘殺数は54頭（昨年1頭）で昨年に比べ多い誘殺数である（図8）。

4 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場内をよく観察し、薬剤の効果が高い若齢幼虫期までに薬剤防除を行う。
- (2) ハスモンヨトウでは卵塊や分散前の若齢幼虫の除去も効果的である。
- (3) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット（4 mm 目以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。なお、ハスモンヨトウはネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの編み目をくぐり施設内に侵入するので、卵塊を見つけたら取り除く。
- (4) オオタバコガ幼虫が果実の中に侵入（食入）した被害果は、次世代の発生源になるので、食入した幼虫を殺し、圃場外に持ち出し処分する。
- (5) 薬剤は散布むらがないように葉裏にも散布する。
- (6) 農薬の使用にあたっては、使用基準を遵守して安全使用に努める。

熊本県病虫害防除所ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/>

問い合わせ先  
熊本県農業研究センター  
生産環境研究所病虫害研究室  
予察指導係（病虫害防除所）  
担当：曾我、樋口  
TEL096-248-6490  
FAX096-248-6493

フェロモントラップにおける

ハスモンヨトウの誘殺状況

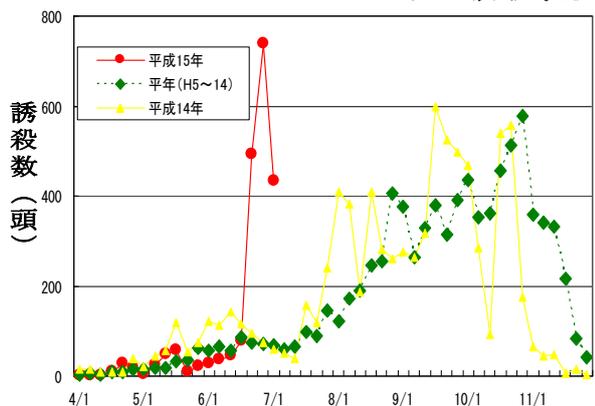


図1 合志町

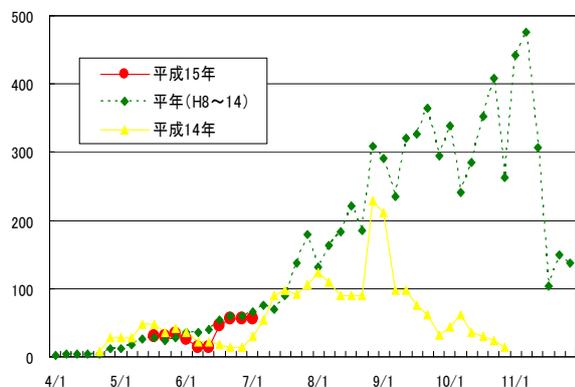


図2 鏡町

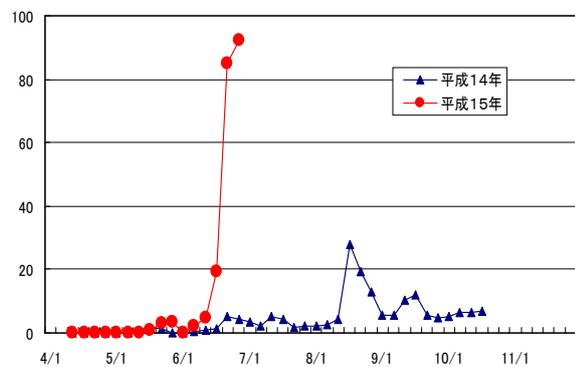


図3 波野村

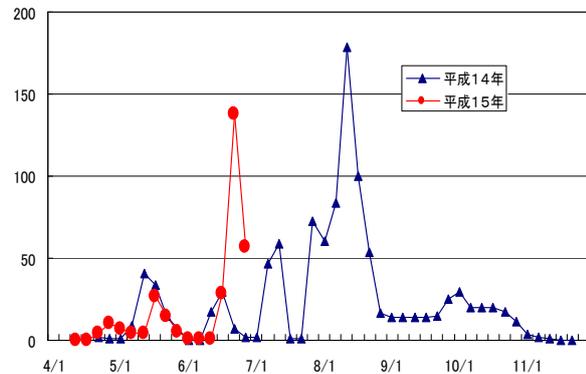


図4 清和村

調査時期 (半旬)

フェロモントラップにおける

オオタバコガの誘殺状況

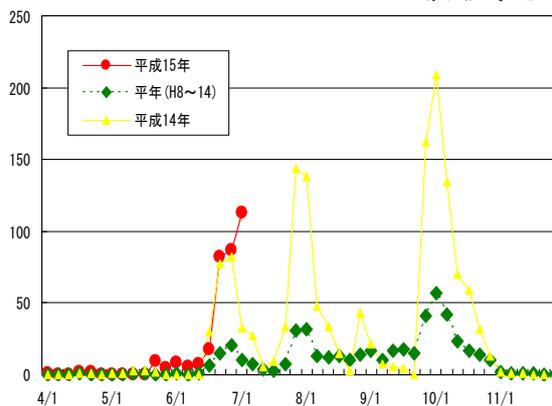


図5 合志町

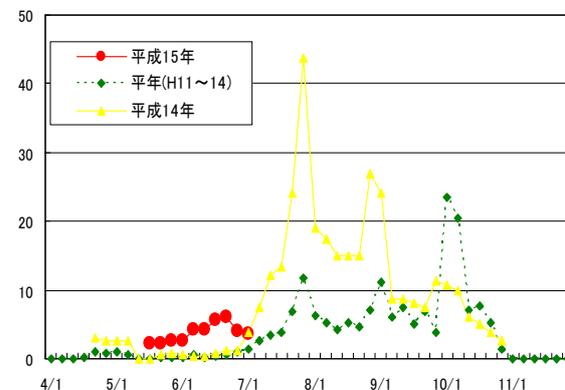


図6 鏡町

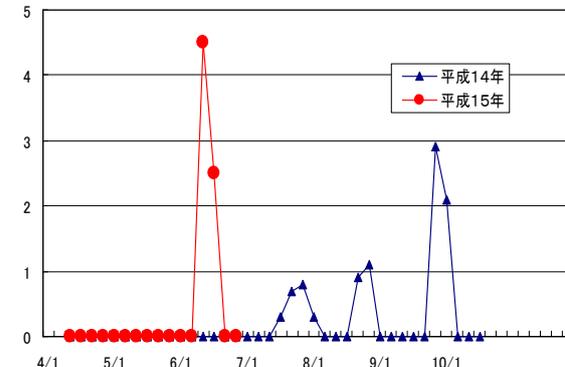


図7 波野村

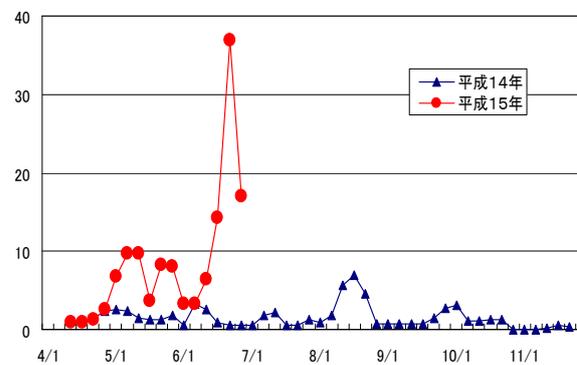


図8 清和村

調査時期 (半旬)